

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 26 年 1 月

○ 概要

(1) 平成 26 年 1 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 5,770 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。5.8%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,021 円（伸び率 5.3%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,412 億円（伸び率 1.9%）、薬剤料が 4,349 億円（伸び率 7.2%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 515 億円（伸び率 23.0%）であった。（→P.4）

3要素分解 （→P.8-9）	処方せん 1 枚当たり 薬剤料	処方せん 1 枚当たり 薬剤種類数	1 種類当たり 投薬日数	1 種類 1 日当たり 薬剤料
実数	5,653 円	2.96 種類	21.6 日	88 円
伸び率（%）	+6.7	▲0.5	+4.7	+2.5

(2) 薬剤料の約 85%を占める内服薬（3,615 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）246 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 937 億円（伸び幅 51 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 56 億円（総額 585 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 （→P.10~13）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,615 億円 （+246 億円）	21 循環器官用薬 （937 億円）	11 中枢神経系用薬 （585 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（469 億円）
0 歳以上 5 歳未満	39.4 億円 （▲2.38 億円）	44 アレルギー用薬 （15.0 億円）	61 抗生物質製剤 （9.65 億円）	62 化学療法剤 （6.26 億円）
5 歳以上 15 歳未満	84.2 億円 （+0.34 億円）	44 アレルギー用薬 （35.6 億円）	61 抗生物質製剤 （14.0 億円）	11 中枢神経系用薬 （10.6 億円）
15 歳以上 65 歳未満	1,302 億円 （+43 億円）	21 循環器官用薬 （296 億円）	11 中枢神経系用薬 （260 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（176 億円）
65 歳以上 75 歳未満	896 億円 （+92 億円）	21 循環器官用薬 （284 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（137 億円）	11 中枢神経系用薬 （100 億円）
75 歳以上	1,294 億円 （+112 億円）	21 循環器官用薬 （355 億円）	11 中枢神経系用薬 （213 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（152 億円）

(3) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,021 円（伸び率 5.3%）で、最も高かったのは石川県（11,464 円（伸び率 3.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,574 円（伸び率 5.6%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは北海道（伸び率 7.4%）、最も低かったのは沖縄県（伸び率 2.3%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 515 億円（伸び率：23.0%、伸び幅 96 億円）（→P.36）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	49.4%	-
薬剤料ベース	11.9%	+1.5%
後発品調剤率	56.9%	+2.0%
（参考）数量ベース（旧指標）	31.9%	+2.5%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量）+〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.36~37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+23.0%	+29.3% （40 歳以上 45 歳未満）	+7.4% （0 歳以上 5 歳未満）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	11.9%	13.0% （65 歳以上 70 歳未満）	6.6% （5 歳以上 10 歳未満）

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~39）

年齢区分 （→P.36~40）	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	460 億円 （+85 億円）	21 循環器官用薬 （121 億円）	23 消化器官用薬 （87 億円）	11 中枢神経系用薬 （51 億円）
0 歳以上 5 歳未満	3.41 億円 （+0.12 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.08 億円）	61 抗生物質製剤 （0.86 億円）	44 アレルギー用薬 （0.67 億円）
5 歳以上 15 歳未満	6.90 億円 （+0.88 億円）	44 アレルギー用薬 （2.79 億円）	61 抗生物質製剤 （1.65 億円）	22 呼吸器官用薬 （1.11 億円）
15 歳以上 65 歳未満	164 億円 （+29 億円）	21 循環器官用薬 （39 億円）	23 消化器官用薬 （27 億円）	11 中枢神経系用薬 （21 億円）
65 歳以上 75 歳未満	119 億円 （+25 億円）	21 循環器官用薬 （39 億円）	23 消化器官用薬 （23 億円）	39 その他の代謝性 医薬品（14 億円）
75 歳以上	167 億円 （+31 億円）	21 循環器官用薬 （42 億円）	23 消化器官用薬 （37 億円）	11 中枢神経系用薬 （23 億円）

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	805 円	1,170 円（岩手県）	617 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+22.4%	+26.9%（東京都）	+14.8%（沖縄県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	49.4%	65.1%（沖縄県）	41.1%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	11.8%	15.5%（鹿児島県）	9.2%（徳島県）
後発医薬品調剤率	56.9%	70.0%（沖縄県）	50.6%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	31.9%	44.0%（沖縄県）	27.0%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

(1) 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 26 年 1 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。

(2) 表章期間

- 平成 16 年 10 月調剤分からデータは収集しているが、伸び率の分析を主眼としているため、統計表上の表章期間は平成 17 年 10 月以降とした。